

診療最前線

感染症内科

感染症内科では、細菌、ウイルス、カビなどによる感染症の診療を行っています。感染症診療の特徴は、人から人へと伝染する可能性のある疾患を扱う事です。そのため、疾患の治療だけでなく感染症の予防、拡大の防止など公衆衛生にあたる業務も行っています。



第2種感染症病床入口

外来診療は、伝染病以外であれば通常の内科外来として診療を行っています。伝染する可能性のある疾患についてはその都度専用診察室を使用して診療します。特にインフルエンザの流行する冬季には、発熱外来を設けて一般の患者さんに影響の

無いよう対処しています。入院診療についても、肺結核を除く様々な感染性疾患の入院治療を行っています。

感染症対応の病室や集中治療室にも感染症対応のベッドを用意する等、地域のニーズに応えられるよう努力をしております。

マダニ感染症（重症熱性血小板減少症候群…SFTS）

2013年、西日本でマダニに咬まれて発症し、死亡例が出たことから大きな話題となった感染症です。

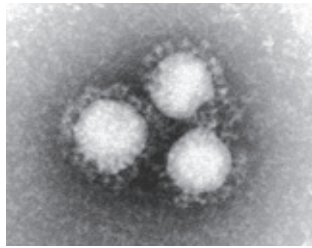


図1: SFTSウイルス

原因となる

マダニに咬まれて発症し、死亡例が出たことからの大きな話題となった感染症です。原因となるウイルスはフレイボウイルス属SFTSウイルスと呼ばれるもので、ウイルスを持ったマダニがヒトを咬むことで感染します（図1）。1〜2週間の潜伏期間の後、発熱に加えて吐き気、嘔吐、腹痛、下痢などの消化器症状で発症し、病状が進行すると、血便などの出血傾向や筋肉痛、意識障害などが見られるようになります。現時点でウイルスを持つマダニはタカサゴキラマダニとフタトゲチマダニの2種類です。

いずれも野山に生息し、家の中でよくみられる家ダニは原因となっておりません。

マダニの活動性が上がる春から秋にかけて、野山で作業をする、あるいは山歩きやキャンプなどをする際に、肌を露出しなことが大切です。野外から戻った時には体や衣服にマダニが付いていないかを確認しましょう。咬まれてしばらくすると痛みやかゆみが出ることも多いですが、咬まれたことに気付かない人もいますので、きちんと目で確認することが重要です。

もしマダニに咬まれてしまった場合、必ず発症するわけではないので、落ち着いてピンセットで取り除くのがよいでしょう。もし固く咬みついて取れない場合や、黒いとげの様なものが残った場合は病院で取り除いてもらいましょう。もしその後1〜2週間の間に熱が出たり、下痢となった場合は病院を受診し、マダニに咬まれた事を伝えてください。

妊娠と先天性風疹症候群

風疹は風疹ウイルスにより発症しますが、妊娠初期（特に10週まで）の妊婦に感染した場合、

胎児に様々な先天性疾患を発症します。特に心臓の奇形、難聴、白内障は3大症状と呼ばれ、その他にも脳の障害などをもたらすこともあります。

風疹自体は一度かかると終生免疫（二度とかからない）ができるため、子どもの頃三日はしかにかかると、予防接種を受けた方は概ね心配ありません。（表1）当院では予防接種だけではなく、ご自分で風疹にかかったかどうか分からない、また予防接種をしたのかどうかも分からない方について、体内に免疫ができていくかどうかを判定する抗体検査も行っておりますので、心配な方は受付でご相談ください。

	男性	女性
1990年4月2日以降生まれ	個別接種2回 (受けなくても良い)	
1987年10月2日～90年4月1生まれ	個別接種1回 (受けなくても良い)	
1979年4月2日～87年10月1日生まれ	定期接種なし	
1962年4月2日～79年4月1日生まれ	定期接種なし	中学校で 集団接種
1962年4月1日以前生まれ	定期接種なし	

表1: 風疹の予防接種状況